本の中の
おいしいレシピ

第３回「ぐりとぐらのカステラ」　―「お探し物は図書室まで」―

今回紹介するレシピは、『お探し物は図書室まで』のなかで登場した「ぐりとぐらのカステラ」です。この本は、2021 年の本屋大賞２位の作品で様々な人の人生の「探しもの」を見つけられる図書室の物語です。人生に悩む５人の主人公がふとしたきっかけで訪れた図書室で聞き上手な司書が意外な本のセレクトと可愛い付録で彼らの背中を後押しします。

第１の主人公朋香は、総合スーパーで働いている 21 歳の女性。なんとなく会社に入りなんとなく生きていた。そんな自分を少しでも変えたいと思いパソコン教室に通い始める。少しでもパソコンが上達するために図書室に立ち寄り、司書に相談するとパソコン関連の本の他に『ぐりとぐら』の絵本とフライパンの形をしたフェルトを渡されます。『ぐりとぐら』を読み、これをきっかけにカステラを作ることに挑戦します。最初はうまくできなかったものが次第にできるようになり同僚が言った「続けているうちに分かることがある」という意味がわかります。

“あせらなくていい、背伸びしなくてもいい。今は生活を整えながら、やれることをやりながら、手に届くものから身につけていく。備えていく。“(57 頁)

もうひとつの主人公「ぐりとぐら」

「ぐりとぐら」は野ねずみの兄弟。料理すること･食べることが好きな「ぐりとぐら」は森の奥へ散歩に出かけた時、大きな卵を見つける。卵を持ち帰って家でカステラを作ろうと動かしてみたが重くて動かない。しかたなくその場でカステラを作ることにし、調理器具や材料を運び、大きなカステラを焼き上げる。いい匂いに誘われて集まった動物たちと一緒に美味しく食べた。残った大きな卵の殻はどうなったのでしょうかというお話。「こどものとも」93 号に収録。1963 年 12 月発行で私が生まれて３ヶ月後に誕生していました。

お菓子作り１年生が挑戦してみました。インターネットで何でも調べられる時代になり、レシピ等を参考にしながら作りました。電子レンジを活用すれば成功したかもしれませんが、今回フライパンを使用しました。しかし、見事に失敗。火加減を調整したのですが真っ黒に焦げてしまいました。何事も失敗を経験して上手くなるものです。先に記載した本文の内容を実感した瞬間でした。

この季節、新しい生活を迎えた方も多くいると思います。最初はみんな 1 年生です。失敗を恐れず、前に向かっていけば何とかなるものです。もうすぐ一つめのゴールを迎える男のレシピでした。

お探し物は図書室まで
青山美智子著
小説・文芸書(雑誌棟 1F リーディング・ルーム)
913.6 A58o

ぐりとぐらとなかまたち
宮城県美術館[ほか]編
開架図書(本館 2F)
726.6 G95